



民主主義への道 5

理事長 千葉忠夫

・デンマーク人は働き者。日本農業は庭仕事？ (承前)

デンマークでは一軒の農家は平均 50 ヘクタールくらいの土地を所有している。あるとき日本の農業視察団が来てデンマークの農協中央会で懇談会が行われた席上、日本の農家の土地の平均所有面積は？とデンマーク側から聞かれ、日本側が「3～5 アールくらい」と答えたら「そんな面積では農業じゃなくて庭仕事だ」とデンマーク側。日デン双方大爆笑となった。

・焼きじゃがと落ちりんごで得た満腹感

私のいた農場では 11 月に入ってもじゃがいもの収穫が終わらないくらい沢山のじゃがいもを作っていた。寒風に凍えながらじゃがいも選別機の上で作業したものである。白夜に近い夏の日があったのに、このころになると日はめっきり短くなり、午後三時を過ぎると薄暗くなる。視界が悪くなると外での農業は危険なのでじゃがいも収納庫で大きさを別に分別する作業が行われた。この作業は一人でもできるので私によく任されたものだが、私にとっては楽しみでもあった。とにかく、農作業は腹が減ってしょうがない。ましてや使用人である私は家族と一緒に食事のときにあまり食ってはいけないだろうと勝手に思い込んでいたのでいつも空腹であった。この一人のときがたらふく食うチャンス。室温摂氏 4 度を保つため、冬の暖房用にヒーターがあったのでそれでじゃがいもを焼いて食べたのだ。この次は塩をポケットに忍ばせておこうなどと思いながら…。

「Chiba、今日はいつもより食べないけどどうかしたの？」夕食時、案の定マリアに指摘されてしまった。

「何でもないよ」と答えるとき、じゃがいもで満たされた満腹感と外国にあって私を気づかせてくれる他人の存在。私はしみじみ、「あア～、今日は幸せだなア」。

満腹感といえばもう一つ。この農場の庭には大きいりんごの木が二本あって沢山実を付けて

いる。秋風に振り落とされ芝生にごろごろしているりんごを段ボールの箱に拾い集めておくのだが、控え目に食べた夕食の後、勝手にりんごを屋根裏の自分の部屋に持ち帰り、私だけの食後の果物としていただく。りんごの気持ちは良く分かると言うが、この私の満腹感と満足感を、食べられたりんごは良く分かってくれただろうか。

・お茶の会に呼ばれたが

月に 2～3 回夕食後、ポール家では兄弟や知人宅を訪ね、コーヒーを飲む習慣があるらしい。お茶に呼ばれ、呼びあうというやつだ。私はそのたびに連れていかれ、行き先の家族に紹介されるのだ。多分ポールはこんなふう私を紹介しているのであろうと想像した。

「俺のところには日本人の使用人がいる。Chiba は俺のところでは農業を学びたいと言っている。Chiba は高等学校を出ているんだぜ！」高等学校くらい出ているのは当たり前と思っていると、

「ヘエー、何でまた高等学校を出て百姓をやりたいのかねエー。」と友人。後で分かったことだが、デンマークでは高等学校進学率は 30% 前後（現在 60% くらい）。高等学校は国民学校（日本の小中学校をあわせたもの）卒業後、高等学校に進学可能（学力的に）者だけが行くのだ。日本のように「猫も杓子」も高等学校に行くのではない。高等学校教育を必要とするものが行くのであって、決して実のない学歴をつけるためのものではない。したがって高等学校入学試験はない。

はじめの頃はこのお茶呼ばれも興味があったが、だんだんと苦痛になってきた。彼らの談笑に付いていけないからだ。たまに「チバ」という音を聞くとアッ！誰かが自分の事を話していると、身体中を耳にするのだ。疲れる。屋根裏の部屋に一人でいたい。訪ねた先で緊張しながらケーキを食べるよりも、殺風景な部屋だけれどゴロンと寝そべって船便で送られてきた二ヶ月前の日本の新聞を読みたい。活字が恋しい。

・もういくつ寝るとクリスマス

12 月に入ると毎日食卓にロウソクを灯すようになった。今までも客人が来た時とかパーティのときは必ず灯していたが、なぜ毎日なのだろう？

「もういくつ寝るとお正月、お正月には…」と同じように子供たちはクリスマスを待ち焦がれて

いるのだ。よく見ると、毎日灯すロウソクには12月1日から12月24日までの日付が刻まれていた。子供たちは毎日ロウソクが灯り、炎を見つめながらイエス様の誕生日が近付くのを待ち焦がれているのである。一年中で一番たくさんもらうクリスマスプレゼントとクリスマスのご馳走を！

・初めて迎えたデンマークのクリスマスイブ

クリスマスイブ、子供たちが待ちに待った日である。デンマークではこの日にクリスマスプレゼントがもらえるのだ。まずご馳走だが、ダックか七面鳥の蒸し焼きが一般的である。豚の焼肉などを用意するところもある。デザートはデンマーク独特の牛乳で炊いたお粥にサクランボの薄いジャムをかけて食べる。このお粥の中にはアーモンドを細かく切って入れてあるが、一個だけ丸ごと入っている。これに当たった者はアーモンドプレゼントがもらえる。日本の東北地方には、果報だんごというものがある。だんごの中に入っている端樹に当たった者は果報としてプレゼントがもらえる風習とよく似ていると思った。ご馳走を食べ終わると、飾り付けたクリスマスツリーのまわりをクリスマスソングを歌いながら家族全員手をつないでまわる。これも一般的だが、この日は家族だけが集まる日らしい。特別なことがない限り家族以外の客人は来ない。

私たちの知っている「清しこの夜」「ジングルベル」など数曲を歌うと、いよいよクリスマスプレゼントの交換が始まる。ツリーの下に山と積まれたプレゼントを代わる代わる取って、ギフトカードに名前の書いてある本人に渡すのだ。子供たちはこの夜だけはもらったばかりのおもちゃで遊ぶことができる。

ホワイトクリスマスといって12月24日には雪が降ることを皆願っているのだが、最近では地球の温暖化でホワイトクリスマスを迎えたことがない。クリスマスイブ、クリスマスツリー、セカンドクリスマスデー。日本の正月三賀日のように飲み食いの日々が続くが、街はいたって静かで喧噪な賑わいはない。

・花火があがる「新年の前夜」

12月31日は日本では「年越し」「大晦日」というがデンマークでは「新年の前夜」という呼び方をしている。なぜか習慣的に鱈(タラ)を夕食に食べる家庭が多い。夕食後はテレビ番組に興じ、午前零時の時報を期してHappy New

Year!とシャンパンで乾杯。デンマーク語で Godt Nyt År!そして乾杯は Skål! (スコール) という。

各家で打ち上げる花火が新年の夜空を赤く染める。花火は夏のものと思い込んでいる私は寒い冬の花火に最初違和感を抱いたものだ。

1月1日の朝にかかる新年の夜は一年に一回だけ子供たちが悪さをして許される日である。百鬼夜行、子供たちはあちこちの家をまわり、窓ガラスに練り歯磨きで落書き、置きっぱなしの自転車を見つければ何百メートルも離れた森の中に放棄し、郵便受箱にはよく爆竹が投げ込まれ、旗竿にはガラクタが掲揚されているといった具合である。

・1月1日はただの月初め。

でも私には期待に満ちた新年だった

1月1日の朝は寝正月(ねしょうがつ)で何もない日だ。ただの月の最初の日に過ぎない。日本のお正月を知っているものにはなんとも味気ない元旦だ。考えてみるとクリスマスが正月みたいな行事だった。学校や会社など早いところでは1月2日から始まる場所がある。いまだお正月じゃないかと心の中で不満が爆発した。この味気ない正月も私には初めて迎えたデンマークの新年である。期待に満ちた新年であった。何よりも半年以上付き合った豚どもとお別れのできることに。1月5日からI・P・C(インターナショナル・ピープルズ・カレッジ)に入学できるからだ。

・I・P・Cの日々が始まった

—悲喜こもごもの六カ月—

有り金全部をはたいての入学は心細かったが、勉強できる喜びをこれほど感じたことは日本では一度もなかった。なんとかなるさ!私は決して楽天主ではなく、むしろ心配性人間なのだが、ケセラセラと黙って歌っていた。

この年は、新年にかけて雪が結構積もった。ポール家から学校まで約50キロの道程をポールが注意深く運転してくれた。1月から学校に行くとポールに言ったとき、もう百姓はやらないのか?というような顔をしていたが、自分は沢山デンマークのことを知りたいので学校に行きたいんだと言ったら、ポールやマリアはわかってくれた。でも子供たちは多分に不満のようだった。遊び相手がなくなるからだ。

この手記は月刊「権利闘争」(権利問題研究会発行)にて連載されたものです。転載の許可をいただきました関係者の方々に感謝いたします。

鹿児島研修報告

講演「安心して生きられる社会」

講師 アンニャ・ロン・クリステンセン氏

二日目の午前中に行われた、北フュン島市市議会議員、同市議会社会福祉委員長のアンニャ・ロン・クリステンセン氏の講演要旨を報告します。



千葉理事長とアンニャさん

【個人史】彼女は現在39歳で3人の子どもの母親で、個人で美容室経営。市会議員。

子供のころは家が貧しく、外国へ旅行にも行けず、欲しい服も買えなかったが、家族の中に愛があったので不満はなかった。

小学生のころ幼い弟二人を学校へ連れて行くなど、子守をしながら通学した。13歳の時近くの工場でアルバイトを始めた。働いて得たお金で欲しかった服が買えた、それからいろいろなパーティーに参加できた、それが楽しかった思い出。9年制（日本の中学校）を終わると（16歳の時）、高等学校ではなく職業専門学校、美容師の学校へ進んだ。19歳で資格を取り、すぐに美容師の職場を見つけた。20歳で生んだ最初の娘は今高校生で国から奨学金をもらいアルバイトをしている。（デンマークでは18歳を過ぎると親子間に経済関係は無い＝千葉注。）

22歳で自分の美容室を持つ。24歳で産んだ長男は15歳（中3）、ボランティアで年長の子どものための体育とか、そういうものを指導している。その子を妊娠中に恋人と別れた。とても辛い思いをしたが、相手が他の人を好きになったというのではどうしようもないので、別れる決心をした。その後3年間未婚の母でいたが、13年前に現在の夫と出会う。彼は自動車の修理工場を経営し中古車の売買もしている。2010年に結婚し12年に共通の娘が生まれた。娘は6か月で保育園に入り、今4歳で幼稚園に行っているが非常に自立していて家事の手伝いなどをやる。

【議会へ】彼女が政治に関心があったというより組合活動やボランティア、PTA活動、いろいろやっていたので、4年前に市長が市会議員に勧誘しました。市長の言葉で政治に参加する自信を得て、とてもうれしかった。彼女はいろいろな権利も男女平等である社会が当然であると思い、勧誘を受け入れて立候補し、当選した。

初当選だが他の議員より非常に多い得票だったので、住民に一番必要な部門を担当している社会

社会福祉委員会は市の予算の40%を使っている。彼女が委員長として力を注いだのは4つ。

まず住民、市民が孤独——寂しくないようにしようと心がけた。65歳以上の高齢者の5人に1人が寂しいということが分りそこでボランティア活動の人たちと連携し、いろいろな研修会・講習会を設け、寂しさを無くす施策をとった。

2番目は、年を追って増えている精神疾患の住民の状態をより悪化させない予防策として有効な方法を考えた。

3番目として、以前は行政はボランティアにあまり頼らなかったが、福祉にはお金がかかる、お金が足りなくなるので、ボランティアにいろいろな角度で参加してもらうようにした。

4番目は医療を担当する道州と保健を担当する自治体の役割分担をしっかりと弁えて、なるべく病人をださないように努めている。

【北フュン島市】人口約3万人。市会議員は25人で8人が女性。女性議員は30歳から58歳。女性の委員長は彼女だけ。

【デンマークの女性の政治参加の歴史】

1849 デンマーク初の国会議員選挙。女性参政権は無かった。女性の中に参政権を求める動きが始まる。

1909 初めて地方議会への女性参政権が認められ、男性9千人に対し、千人の女性議員が当選した。

1915 国政でも女性参政権が認められた。

1918 初めて女性が国会議員に当選。

1924 初めて女性が大臣に就いた。

2005 初めて女性が首相に選ばれた。

現在国会議員がいる政党（15以上ある）の党主はほとんどが女性。国会議員は男性112人、女性67人だが、人口が半々なのだから議員比率も半々に近づくべきだ。大臣17人中5人が女性で社会福祉、男女共同参画、教育などの大臣ポストは女性。

女性は男性とは別の角度で医療や社会保障制度を見ているから、女性が国会議員として政治参加することが非常に大切だ。

【レッドソックス運動】1970年代デンマークの女性は、社会の中で、家庭で、政治の場で、全て男女平等でなければいけないと考え、戦いを始めた。男女平等だとブラジャーを付けず（今は付けています—一笑）女性は飾り立てた人形ではないと訴えて化粧もせず髪も整えずに街頭デモを行なった。71年には女性も軍隊に入れるようにした。そういう女性運動が、男女平等賃金とか職場での女性の地位向上につながった。女性議員たちが1年間産休を取れるとか、よし悪しは別として自分の意思で墮胎できるとか、さまざまな権利も得られた。この運動は15年ぐらいで終わった。デンマークでは15年ぐらい戦って男女の地位が同じぐらいになった。

【満足できる男女同権社会】大学でも女性の地位は高まり、医学部などは学生の半分以上が女性。同権は女性がアピールするだけでなく、男性にとっても

福祉委員長に就くことになった。

同権で然るべき。現在産休は女性だけでなく男性も取れる。男性用の「駆け込み寺」もある。

一般労働市場で（民間企業で、ということか？）トップの立場にいる女性の数はデンマークでも多い。男性社会などということは一切なく、デンマークは男女同権が実際面で満足できる状態だと自信をもって言える。

【女性の役割】今デンマークは世界一幸福な国、社会福祉国家となっているが、それを将来も継続するためには女性が政治や社会的役割をしっかりやっけていかなければならない。

4年制大学の看護師や教員の養成部門に女性が大量進出している。先述したが医療関係では女性が圧倒的に多い。介護士、高齢者のケア等保健分野も女性が非常に多い。自然科学分野の学生数も今は男女同じぐらいだが、IT、コンピューター関係は男性が圧倒的に多い。

進路を決めるのは親ではなくて、自分がどんな仕事を得たいか、あくまでも単純に自己決定。その結果、医療保健分野では女性が多い。

【子ども】未婚の女性が非常に多い。結婚はしないが子どもは欲しい女性は人工授精で子供を得ている。少子化の歯止めという面もありポジティブにとらえられている。（男性の場合代理母に産んでもらうが、母親が同居しないと養育できない。）

【賃金】プライベートな職場ではまだ男性の方が女性より賃金が多い。公務員は完全に同じである。

最低賃金は職種で少し違いがあるが、ホームヘルパーの時間給は109DKr（デンマーククローネ）、1DKr=17円として1853円ぐらい。美容師は124DKr、約2100円。

【まとめに】デンマークでは男・女、全く同じ。家庭でも職場でも政治の場でも、同じ立場で物事を解決していくのがデンマークの社会。性差に因るプラス・マイナスが無く、男性女性双方が全く満足している。

デンマークが安心して生活できる社会であるのは、やはり男女平等、そして安心感を与えてくれる国の政策があるから。これが満足できる社会ということ。

（通訳：千葉忠夫 文責：茂木俊郎）

平成 29 年度総会のお知らせ

NPO法人 日本・デンマーク生活研究所の平成 29 年度総会を次のように開催します。

日時：5月27日（土）15：00～17：00

会場：TKP 東京駅丸の内会議室

カンファレンスルーム 4

（東京都千代田区丸の内 3-1-1 帝劇ビル B1F

・JR線 『有楽町駅』徒歩2分

・地下鉄『日比谷駅』『有楽町駅』B3 出口直結

同封のハガキにて出欠を5月16日までにお知らせください。欠席の場合は同ハガキの委任状に署名捺印をお願いします。

また総会終了後帝劇ビル内の中華料理店「桂園」にて懇親交流会を予定しております。会費は税込で4000円です。こちらの参加希望も同封ハガキにご記入ください。

～Weekend Folkehøjskole in Hukushima 第 8 回研修塾 in 福島 のお知らせ

2017年9月15日（金）～17日（日）に開きます。メインテーマは高齢者福祉、特に介護の問題を考えたいと思います。デンマークから北フン島市在宅介護部長アネット・クリステンセンさんを講師としてお招きします。

会場：ホテル福島グリーンパレス

（福島市太田町 13-55 /Tel 024-553-1171

募集人数：宿泊参加者 24名

16日のシンポジウムのみ 未定

参加費用：宿泊参加者 30,000円（会員 27,000円）

その他の参加者 検討中

宿泊施設は予約してあります。研修・シンポジウム等の会場は、現在協議中の他施設になる可能性もあります。詳細と申し込みについては7月にお届けします。

なお17日午後、福島原発の被災地を見学する旅を行ないます。費用は昼食代も込みで3,000円程度と見積もっています。現地で生活している人たちへの励ましを込めて、大勢の参加をお待ちします。

編集後記 ★鹿児島研修塾の報告、シンポジウム後半まで行きつけ。次号で何とか紹介したい。★3.15 東洋英和女学院大学のシンポジウム、幼児教育を大切にしているデンマークの話に、感心しきり。★日本でも幼児教育の重要性を意識して教育勅語を丸暗記させていた幼稚園。それを素晴らしいと褒め称えた「日本会議」の面々（を支える選挙民たち）。★彼我の政治家の質の格差に暗澹たる思いにとられるが……。今まで、朝が来ない夜は無かった。そして、これからも。★自分たちで収穫できるか次の世代になるか、真の民主主義の種まく人であり続けよう。（茂木）

発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel & FAX : 0438-36-3565

お問合せ Tel : 090-9827-9262

茂木俊郎

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

メールマガジンの申し込みはホームページからお願いします。